



# イメージキャラクター「なつきよん」誕生!

## 奈良教育大学に ゆるキャラ鹿が誕生!?

今年創立120周年を迎えるのを機に、広く多くの方々に奈良教育大学を知ってもらい、同時に大学関係者の大学へのアイデンティティを高めてもらうべく、イメージキャラクターの公募を行ったところ、39点のキャラクター作品が集まりました。応募作でやはり多かったのが、鹿をモチーフにした作品。その中でも、卒業生・萩田菜穂子さんが制作した、角を新芽にアレンジしたユニークな作品が選考委員の注目を集め、今回の最優秀作品に選ばれました。

キャラクター決定後には愛称の募集を行い、30点の愛称候補が集ま



最優秀作品受賞者 萩田菜穂子さん

り、在学生の間でよく使われている本学の略称「奈教（なきょう）」の響きに由来した「なつきよん」が愛称に決定しました。

10月1日には、「なつきよん」の披露を兼ねて、奈良教育大学イメージキャラクター表彰式を挙行了しました。

式には、柳澤学長をはじめとする学内関係者以外に、新聞社やテレビ局などの報道機関が集まり、話題性の高さをうかがわせました。

〈受賞者は次の通り〉

○デザイン

最優秀賞

萩田菜穂子さん（平成19年度教育学部卒）

優秀賞

坂本恵己さん（平成14年度教育学部卒）

優秀賞

武知真美さん（平成19年度教育学部卒）

優秀賞

土屋可奈子さん（教育学部4年）

優秀賞

鶴 真美さん（教育学部3年）

○愛称

石川 康恵さん（大学院2年）

松原 正之さん（教育学部4年）

近藤 花梨さん（教育学部2年）

在学中、美術教育を専攻していた萩田さんは、「自分が学生時代に専攻していた美術の分野で受賞したことはすごく光栄。なつきよんは自分の学びやである奈良教育大学を意識して考案した。（デザインの）アイデアが浮かぶのはそんなに時間がかからなかった。なつきよんは、大人でも子どもでもなく、男でも女でもない。表情に丸みをもたせたのは、シャープな顔立ちよりふっくらした方が、

広い世代に受け入れられると感じたから。これから、在学生の皆さんや奈良教育大学に関わるすべての方と共に、のびのびと育っていくことを期待している」となつきよん誕生の秘話を披露し、今後の活躍を期待していた。

今後なつきよんは、奈良教育大学の広報リーダーとして、オープンキャンパスや大学行事などで活躍していく予定です。また、早くから問い合わせがあるなつきよんグッズについても、ストラップをはじめこれから拡大していきます。これからも、奈良教育大学イメージキャラクター「なつきよん」を応援してください!



着ぐるみも登場



表彰式

## 硬式 野球部

### 楽しむことを大切に

主将 寺井 宏文

硬式野球部は現在、プレイヤーが1回生7人・2回生12人・3回生7人・4回生6人の計32人、マネージャー3人で活動しています。練習は月・水・木・土の週4日と少ないながらも、主将を中心に練習メニューを考え、日々取り組んでいます。

活動の中心となるのは春と秋に行われるリーグ戦です。その他には、夏休みに近畿国立大学体育大会と遠征、合宿、秋には近畿学生野球連盟の新人戦、奈良県知事杯、和歌山大学との定期戦などの活動をしています。

リーグは近畿学生野球連盟に所属しており、昨年の春季リーグにおいてII部優勝、そして本学野球部史上二度目のI部リーグ昇格を果たしました。その後の秋季リーグでは6位となりませんが、入替戦の末、何とかI部に残留することができました。そして、I部で迎える2季目のリーグとなった今年の春季リーグにおいては、I部昇格後初めての勝ち点となる勝ち点1を取り、5位でI部残留を決めることができました。

私たちは、他の大学のように個人個人の力は大きくなく、また他大学に比べ練習時間なども決して十分で



2008 春季リーグ最終戦

はありませんが、チームとして他のチームに負けない力は持っていると思います。元気で仲が良く、全員が一致団結した時には、不思議と負けない雰囲気を作ることができます。試合の勝ち負け以上に、まずは「野球を楽しむ」ということを大切に、奈良教育大学の野球部らしい自分たちの野球をしたいと思っています。大学関係者の方、OBの方々、応援してくれる家族や友達など、周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、次のリーグ戦も昨季以上の成績を残せるよう、他の大学に挑んでいきたいと思っています。

## 課 外 活 動

## 劇団 キラキラ座

### 輝こう

部長 糸井 茂裕

劇団キラキラ座とは・・・「人生は、楽しい方がいい」という信念を胸に、ただひたすらに走り続ける奈良教育大学のバラエティ制作工場である!元々「舞台演劇がやりたい」という思いから生まれたキラキラ座ですが、近年では自主制作映画への取り組み、大学祭での本格的喫茶店の演出及び運営、歌とピアノを取り入れたちょっぴりミュージカルチックなお芝居など、舞台の幅をさまざまな方向に広げています。旗揚げ以来、2009年をもって15周年を迎えようかという歴史の中で、「楽しいことがしたい!」という思いを抱いた数々の団員たちのキラキラとした輝きが、新たな道を照らしてくれているのでしよう。

舞台制作を進める上で大事なものは、技術やセンスに先行して、「こういうことがしたいんだけど、こうしたら良くなるんじゃないか」といった、思いの数々です。それが強ければ強いほど、ぶつかり合えばぶつかり合うほど、幕が降りた時に味わうことのできる感動や高揚感は、言いようのないほどに強くなるものです。さて、受験生の皆さんは、大学入



2008 年度新人公演

学後に対して何かしら思いを持っていきますか?大学という舞台もまた、主役であるあなたの思いの強さ、大きさによっていくらかでも色濃く演出でき、また逆に淡白なものにもなってしまうんです。せっかくなのでキャンパスライフを、多くの可能性を開拓できる時期を、何となく過ごしてしまおうのはあまりにももったいないではありませんか。積極的に、前向きに、自分の気持ちを解放してください、そして若いエネルギーを爆発させてください。私たち劇団キラキラ座の団員たちはそんな姿勢を大事にしながら、今日も舞台製作に励み、キラキラと輝いています。